

平成29年5月14日付

熊本日日新聞

被災地を思い

毎日を大切に

若者コーナー

被災地を思い
毎日を大切に

前田紗英14 中学生
(荒尾市)

4月16日、1年前のその日は誰もが眠れない緊張した夜だった。また地震がくるんじゃないか、行方不明の方は見つかったのだろうか。いろんな事を考えた。

あの日から1年、私はまた当たり前に暮らしている。でもまだ自分の家がない人、亡くなった方々の家族は、当たり前

暮らしたくても暮らせない。この1年間、私は被災地のことをどれくらい考えたのだろう。私はあまり考えていなかったと思う。だから普段の当たり前の生活を送ってきたんだと思う。

私は、9月ぐらいに被災地を母と車で通った。どの家も見えるのはビニールシート。中には「危険」などと貼り紙がある家もあった。まだこんなにも元に戻っていないのかと思った。同時に少し胸がギュツとなった。

私の家族は6人で、父と姉はそれぞれ仕事場や学校で離れて暮らしている。家族全員がそろうことは少なく、だからこそ6人そろって食べるご飯はとてもおいしい。その時間が大好きだ。

まだいろんなかたちで、みんなが思う当たり前の生活が送れていない人たちがいる。私は普段通りに過ごしているけれど、明日何が起ころってその普段が崩れるかもしれない。だからこそ今、好きなバスケができることや家族と過ごせることを当たり前と思わず、将来に向けて一日一日を大切に生きていきたい。

「将来に向けて一日一日を大切に生きていきたい。」